

令和7年度 学校経営計画・学校評価

■4月8日(火)提出

■10月2日(木)提出

■3月13日(金)提出

学校番号	20	高知小津	高等学校	課程	全
------	----	------	------	----	---

高知県の教育理念	(1) 学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2) 郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3) 多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人	スクール・ミッション	スケールメリットを生かして多様な教育課程や部活動の充実を図り、特色ある拠点校として、各分野で活躍する人材を育成する。 探究型学習で培われる科学的探究力を生かし、理数系大学への進学を含めた生徒の進路実現を図り、国内外で活躍する人材を育成する。
スクール・ポリシー	【アドミッション・ポリシー】(入学者受け入れ方針) 【普通科】中学校までの基礎的な学力を身に付けており、学業等に主体的、積極的に取り組むことで、希望の進路の実現に向かって継続的に努力することができる生徒を募集します。 【理数科】中学校までの基礎的な学力を身に付けており、数学、理科に強い興味と関心を持ち、さまざまな課題に論理的・科学的に取り組んでいこうとする探究心旺盛で、将来、理数系分野で活躍したいと考えている生徒を募集します。 【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力) ○教科内容を理解する力と探究的思考力を育成します。 ○科学的な洞察力を育成します。 ○生涯にわたって学び続ける力・キャリアデザイン力を育成します。 ○多様な個性を尊重し、連携・協働する力を育成します。	【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針) ○主体的・協働的に学びに向かう姿勢を育む ・学ぶ意義を見つけ、自分の将来を設計していくことができるキャリアデザイン力を身に付けていくための学習活動を実施します。 ・総合的な探究の時間における課題研究を実施します。 ○進路実現のための確かな学力を身に付ける ・進路希望に応じた効果的な学びにつなげるためのカリキュラムを編成します。 ・ICT等を活用して対話的で深い学びにつなげるための授業を行います。 ・文理融合型学習やSTEAM教育を意識した授業を行います。 ○理数系分野で活躍できる人材を育てる ・SSH事業を通じて開発した課題研究や体験ゼミ等の教育プログラムを活用し、理数系分野への興味・関心を高めるための体験的・実践的な学習活動を実施します。 ・理数科における専門性の高い授業と探究型学習を実施します。	

学校関係者評価	
【学力の向上】	評価 【 B 】
目標に対して具体的な実践が行われており、成果を出している。一般入試の結果が出ていないため評価しきれないが、推薦入試においては昨年度を上回る水準で国立大学への合格者が出ている。進研模試の学力層など目標値に達していない項目が若干存在しているものの、大学や企業との連携を続けつつ、授業デザインプロジェクトによる授業改善への不断の努力を行っていることは、学力向上の重要な取組であり、評価に値する。	
【社会性の育成】	評価 【 A 】
目標値は概ね達成しているが、社会性の育成の評価指標として適切かどうかについてはなお検討が必要である。フィールドワークの充実、グループワークでの協働、発表の機会の充実等、社会性を育む取組が充実している。また、先生と生徒が一体となつての授業デザインプロジェクトも生徒の社会性の育成に資するものと考えられる。体験から学習のモチベーションまで繋げる事は容易ではなく、限られた学習時間で、受験勉強との兼ね合いや、企業、教員の負担が大きいと思うが、継続して行ってみたい。	
【チーム学校】	評価 【 B 】
先生と生徒が一体となつての授業デザインプロジェクトは、チーム学校の一つの姿であると考えられる。入学志願者数の減少の問題については、チーム学校として魅力的な学校の姿を積極的に発信していくことが、将来につながっていくものとする。学年団のまとまりがとてよく、管理職への報連相もしっかりできていると感じる一方、働き方については時間外勤務時間が多く、負担軽減に課題もある。組織文化の醸成や業務改善をどのような視点で進めていくかは難しいが、特にこの項目においては目標を十分に達成したと捉えないことが重要だと思つて、あえてBとした。	

(評価)A: 目標を十分に達成 B: 目標をほぼ達成 C: やや不十分 D: 不十分

重点項目	育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
学力の向上	★確かな学力 ○基礎となる知識・技能 ○思考力、判断力、表現力 ○生涯にわたって学び続ける意欲 ★自己の将来とのつながりを見通した学び ○社会の形成に主体的に参画するために必要な資質・能力 ○キャリアデザイン力(やりぬく力)	○C層以上の生徒の増加 ・1年:R6.7月100%→100% ・2年:R6.7月100%→100% ○B2層以上の生徒の増加 ・1年:R6.7月79.9%→80% ・2年:R6.7月79.9%→80% ○授業外学習時間の増加 <目標>・1年:平日2時間、休日3時間 ・2年:平日2~3時間、休日4時間 ○将来のための勉強をしている生徒の増加:R6:94.6%→95%以上 ○卒業生に占める国立大学合格者割合:R6:54.0%→50%以上の維持	○基本的な知識や技能の定着に向けた小テストの実施(3回/月) ○補習の全員受講、模試全員受験 ○授業デザインプロジェクトチームを中心とした授業改善(公開授業の実施) ○課題研究の取組による思考力・判断力・表現力等の育成 ○授業時におけるめあての提示、振り返りの実施の徹底 ○観点別評価による思考力・学びに向かう力の育成 ○効果的な学習課題の提示 ○生徒の授業外学習時間の状況把握(年間2回)	B ○取組は順調に実施できているが、2年生の授業外学習の状況に課題がある。 ○授業外学習をほとんどしない生徒の割合*()内はR6 1年:12.0%(12.3%)、2年:21.0%(15.1%) ○進研模試(7月):C層以上の生徒の割合 ・1年:99.6% ・2年:99.2% ○進研模試(7月):B2層以上の生徒の割合 ・1年:77.3%(平均点偏差値50.7) ・2年:53.7%(平均点偏差値50.0) ○可能性を広げるために勉強をがんばっている生徒の割合 *()内はR6 1年:95.5%(91.0%)、2年:94.6%(94.8%)、3年:97.1%(93.8%)	B ○生徒の学力状況を分析し、校内で共有するとともに、授業外学習習慣の定着と質の向上を図る。 ○公開授業期間をととして授業改善を推進する。 ○小テスト等で生徒の知識理解の状況を確認しながら、効果的な学習課題を提示する。 ○授業や補習をととして思考力・判断力・表現力を伸ばしていく。	B ○国立大学合格者数は、総合型・学校推薦・推薦Ⅱ等75名(昨年度63名)である。*昨年度末時点148名 ○11月時点でのC層以上の生徒の割合は2年99.2%、1年100%とほぼ目標値に到達している。 ○B2層以上の生徒の割合は2年54.7%、1年59.0%であり、目標値に届いていない。 ○将来の可能性を広げるために勉強している生徒の割合は全学年平均93.7%と目標値にやや届いていない。 ○平日の授業外学習時間が2時間以上ある生徒の割合は2年11.2%、1年4.2%といずれも少なく、特に1年は年平均6.9%より少ない状況である。	大学や企業とも連携し、様々な研究や仕事など、実社会に触れる体験をとおして、学ぶ意義を考える取組を行うとともに、授業デザインプロジェクトチームを中心とした授業改善を継続していく。
	社会性の育成	★豊かな心、多様性・包摂性の尊重 ○豊かな人間性・道徳性・社会性 ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む) ○自己存在感、自己有用感、コミュニケーション力、自己決定力等	○総合的な探究の時間において、地域課題解決学習に取り組むことで、地域に貢献する姿勢を養う。 ○生徒の主体的・自治的な活動の充実 <指標> 次の項目における肯定的な回答①85%以上を維持(R7_1回:87.8%)②95%以上を維持(R7_1回:97.1%) ①自分という存在を大切に思える ②立場や年齢、考え方が異なる相手でも、その意見を聞き、理解しようとしている。	○地域協働学習(地域課題解決学習) ○職場体験・インターンシップ ○自己PR・表現の場の提供 ○県内企業等見学 ○ホームルーム活動及び生徒会活動等	B ○1年生では、高知県の地域課題をテーマにしたミニ課題研究に取り組む、グループで共有しながら課題研究のテーマ設定の方法や仮説の立て方を学んでいる。 ○2、3年生では、課題研究での協働学習を通じて、社会課題を解決しようとする姿勢や進路意識や地域に貢献する意識を育んでいる。 ○自分という存在を大切に思える生徒の割合*()内はR6 1年:88.8%(86.2%)、2年:87.0%(88.1%)、3年:87.7%(90.9%) ○立場や年齢、考え方が異なる相手でも、その意見を聞き、理解しようとしている生徒の割合*()内はR6 1年:97.5%(97.1%)、2年:97.0%(96.8%)、3年:96.7%(98.2%)	B ○1年生を対象に、地域フィールドワークの実施を計画・指導し、生徒が学んだことをグループで協働してまとめ、発表できるよう支援する。 ○2年生を対象に、課題研究において調査内容をグループで協働して分析・考察し、その成果を発表や論文にまとめられるよう指導・支援する。	B ○地域でのフィールドワーク、大学等での体験ゼミへの参加などの活動は充実している。 ○指標①の肯定的な回答率は2年のみ目標に到達していない。 ①1年86.6% 2年83.8% 3年87.7% ○指標②の肯定的な回答率は全学年で目標に到達している。 ②1年95.1% 2年96.9% 3年96.7% ○中途退学者0名
取組項目	地域協働学習	【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携 ○探究活動で得られた事実をもとにした論理的思考力、議論する能力の育成	○探究基礎や地域協働学習(地域課題解決学習)の取組の実施 ・講演、地域へのフィールドワーク、ポスター作成及び発表、短期集中体験ゼミ等	A ○地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある生徒の割合*()内はR6 1年:64.5%(62.7%)、2年:62.6%(63.7%)、3年:64.4%(69.1%) ○高知県産業振興推進部産業政策課の方を招いて高知県産業振興計画について講演いただいた。 ○探究基礎や高知県の地域課題に関するミニ課題研究、地域フィールドワークのための企業等との連携等は、ほぼ計画どおり実施できている。	A ○高知県内の企業等へのフィールドワーク、ポスター作成、発表会、短期集中体験ゼミ、ものメッセでの見学やインタビュー調査を実施できるよう計画し、指導・支援を行う。 ○課題研究を通じて生徒が地域課題を発見し、その考察を深め、解決策を検討して論文にまとめられるよう指導・助言を行う。	A ○自分の進路と関わりのあるテーマ設定も見られ、推薦入試では有効に働いている。 ○地域や社会をよくするために何をすべきかを考えたことがある生徒の割合について、全学年の平均は61.5%で、3年生は目標値を達成することができた。 1年 54.6% 2年 61.0% 3年 69.1% ○四国高校生探究活動発表会に向けて生徒実行委員会を立ち上げ、主体的に社会参画する力を養うためのワークショップ等を行うことができた。	生徒実行委員会を母体とする地域社会への参画・探究チーム(リージョナル・イノベーターズ)の立ち上げを進めており、企業など外部と連携した事業も行っている。
	教科横断的教育	【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付ける力の育成	○各教科において言語活動や情報活用能力を育成する場面を意識的に設定した回数:年間1回(R6:1回) ○各教科において文理融合型学習、STEAM教育を意識した授業回数:年間1回	B ○文理融合型アクティブラーニングプログラムの開発、実践、検証 ○総合的な探究の時間における公的データベースからの分析・考察の実施(年間) ○探究活動で得られた事実をもとにした論理的思考力、議論する能力の育成	B ○化学と数学において文理融合型学習を意識した校内公開授業を実施し、多くの教員が参観した。	A ○各教科において言語活動や情報活用能力を育成する場面を意識的に設定した授業を年間1回は実施する。	A ○授業デザインプロジェクトチームによる組織的な取組 ・生徒と授業を語り合うワークショップ(年間2回)を実施し、意見交換を行った。 ・公開授業期間(年2回)により、全教員が今年度の目標である「授業をひらく」ことができた。

チーム学校	取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
学校の振興	★学校の魅力化・特色化 ○理数科や探究活動の魅力発信 ○文武両道の確立 ○進学拠点校としての広報活動の充実 ○創立152年目としての新たな取組の実践	○魅力化・特色化の具体的目標(指標) ・卒業生に占める国立大学合格者割合:R6:54.0%→50%以上の維持 ・就職(公務員を含む)希望者の内定率(100%)R6:100% ・部活動等での全国規模の大会出場、入賞(10部)R6:9部 ・メディアへの掲載(年間3回以上)R6:3回以上 ○学校運営協議会等の実施回数(2回)R6:2回	○高校説明会や中学生の体験入学での学校及び理数科の魅力発信 ○SSHの取組の他校への普及ならびに、授業及び課題研究による生徒の成長を効果的に発信する機会の設定 ○データサイエンスの要素を取り入れた課題研究の実施(年間) ○情報における「高大連携による次世代のデジタル社会に対応した教育の充実事業」の実施 ○学校運営協議会の開催	B ○中学校での高校説明会では、管理職が県内50校の中学校を訪問し、学校の取組を説明した。 ○6月7日に3年生探究活動発表会を実施し、多くの中学生や保護者等に見ていただくことができた。 ○夏休みには、SSH中学生のための科学実験講座を行った。 ○全国大会に出場、入賞した部活動:8部 ○メディアへの掲載3回(テレビ) ○7月26日に第1回の学校運営協議会を開催した。	B ○2月~3月に第2回学校運営協議会を開催する。 ○中学生の一日体験入学では総合的な探究の時間を参観してもらえるようにする。 ○短期集中体験ゼミ等、SSHの取組への参加を他校に呼びかけ、広く普及する活動が続く。	B ○SSH事業(SSH体験ゼミ6回) ・他校からの参加者19名 ・校内参加者74名 ・3年生探究活動発表会(6月) ・3年生、保護者等が170名程度参加 ○広報活動 ・部活動、交通安全運動等 ・メディアへの掲載4回(テレビ4回、新聞8回)	高校入試A日程志願状況(志願先変更後) ・普通科242名(定員240名) ・理数科 17名(定員30名) 定員10名減となった理数科は昨年度(27名)よりも志願者が減少。 体験入学では体験授業も実施し、リージョナル・イノベーターズの実生もTAとして参画するなど、生徒の活躍が見える取組を進めていく。
	★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	○倫理観堅持のための具体的目標(指標) ○文書送付時の複数者点検 ・職員朝礼の実施(週1回) ・不祥事の防止(不祥事0件) ○校内研修の実施回数(年3回)R6:4回 ○不祥事防止委員会の開催 ○不祥事防止委員会の実施回数(年3回)R6:3回以上	○風通しの良い職場づくり ○文書送付時の複数者点検 ○教職員一人ひとりが不祥事防止を自分ごととしてとらえられるような組織的・計画的な対策の推進 ○不祥事防止委員会の開催 ○職員会等での不祥事案件の周知及び注意喚起 ○不祥事防止チェックリストの実施	B ○不祥事防止委員会を中心とし、組織的・計画的に不祥事防止に向けた取組を進めることができています。 ・職員朝礼の実施(毎週) ・校内研修の実施(6回:9月末時点) ・不祥事防止強化月間の取組(7月:個人情報保護について) ・管理職からの注意喚起(適宜)	A ○教職員一人ひとりが不祥事防止を自分ごととしてとらえられるような研修の工夫・改善 ・生徒への不適切な関わりをテーマとし、スクールロイヤーによる校内研修を実施 ・年末年始の時期に向けて、飲酒運転予防の研修を実施 ・不祥事防止の成功事例に学ぶ研修の検討	A ○不祥事の報道がある度に、教職員に不祥事防止の呼びかけを行っている。 ○不祥事防止研修会等 ・不祥事防止委員会(適時) ・校内研修会10回 ・ワークショップ形式の研修を実施 ・職員会議での周知(適時)	対症療法的な研修にとどまらず、教師としての働きがい、働き方や、生徒との適切な関わり方など、日常の自己を振り返る対話的な研修をとおして、不祥事を起こさない組織文化を醸成していく。
	★長時間勤務の解消 ○持続可能な教育組織に向けた業務改善 ○教職員の多忙感の解消	○教材研究や観点別評価等による教科業務に対する負担感の緩和 ○警備による施錠確認開始時刻までの退校 ○時間外勤務時間の削減(3%)R6:1.1%増加 ○部活動ガイドラインの遵守(100%)R6:100%	○学校行事等の検証と整理 ○教材の共有やテストの自動採点の活用 ○職員会議資料の電子化による会議時間の短縮 ○教員業務支援員の活用 ○各種会議の実施時期や回数の見直し ○育休や年休の取得奨励 ○アンケートでのICTの活用	B ○各教科でテストの自動採点の活用が進んでいる。 ○google Workspaceの活用により、事前に資料の共有、意見収集を行うことで、会議にかかる時間を減らすことができた。 ○4月~9月の時間外在校時間:前年度より7.2%削減 ○教員業務支援員の活用により、教材準備にかかる負担感を減らすことができています。	B ○警備による施錠確認開始時刻までの退校を促す。 ○引き続き、教員業務支援員の活用を促していく。	B ○4月~1月の時間外在校時間:前年度より6.9%削減 ・毎月平均18名程度が時間外勤務時間45時間超 ・数か月に1~2名が80時間超 ・年度当初や3年生の推薦入試指導時期のほか、部活動にかかる時間外勤務時間が多。	教員業務支援員や運動部活動指導員の活用を継続するとともに、分掌や教科内での業務の見直し等を行い業務改善に努めていく。